

竹原管内景況調査

12月の景況DIは、製造業・非製造業とも大幅に好転

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、平成30年12月に実施しました調査結果がまとめられましたので、ご報告いたします。

調査概要

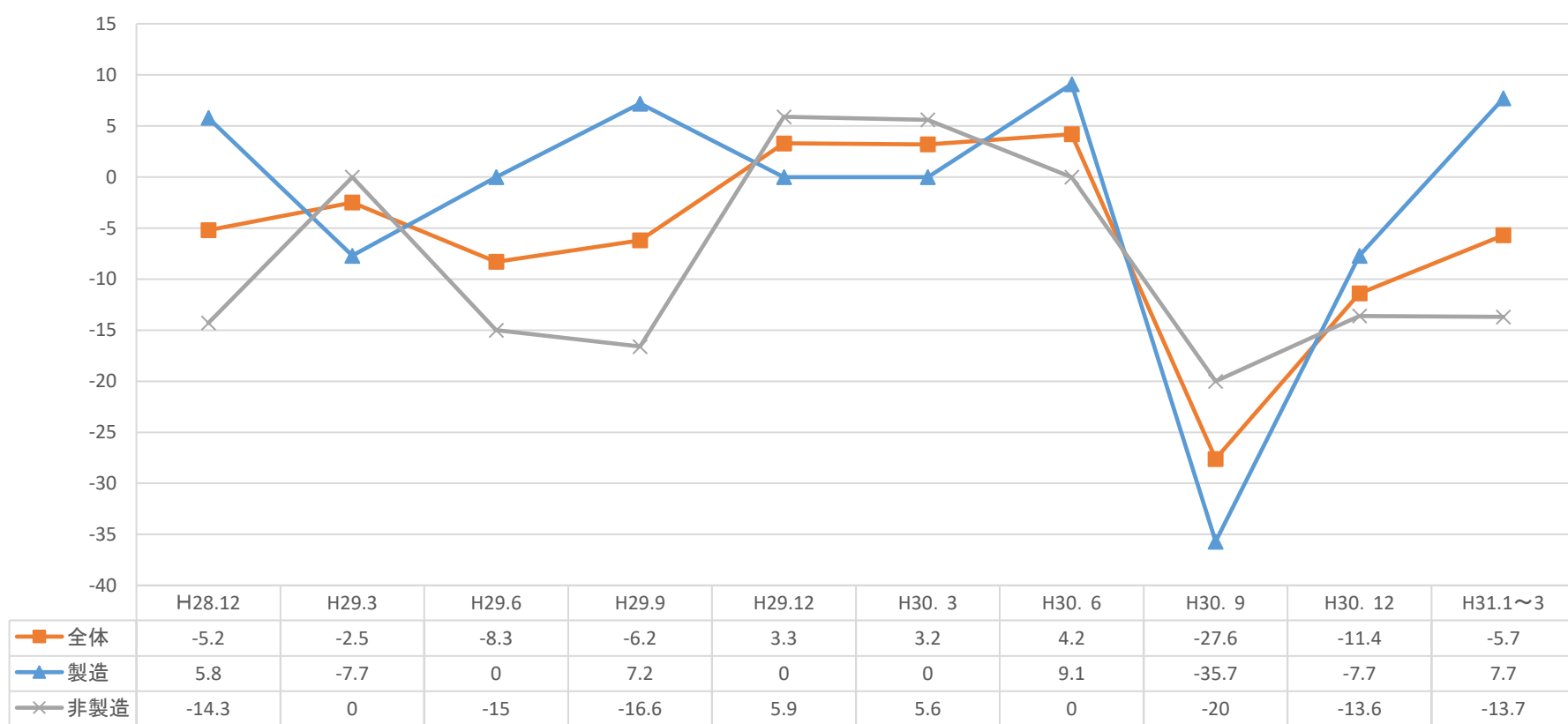
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
平成30年12月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	17	13
建設	6	4
小売	21	8
サービス	13	10
合計	57	35

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



12月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は28ポイント好転し、非製造業は6.4ポイント悪化しています。12月と比べて1月~3月までの見通しは、全体では、5.7ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

《製造業》

- ・市場の動向が鈍い(日本酒)
- ・夏場の猛暑の影響もあり、乳業・飲料メーカー向け商品が伸長した。ジャム等コンシューマー向け商品は依然厳しいが、付加価値商品が伸びた。(食品)
- ・米中貿易摩擦の影響を受け、中国向けや韓国向けの設備導入がスキップしている。(精密機械)
- ・国内産業の低迷により、受注が伸びない。(ゴム)

《非製造業》

◇建設業

- ・災害による工事の発注が増加した。

◇小売業

- ・売上減少(お客様の購買意欲減少)(スーパー)
- ・7月の災害から客足がなくなった。12月前後から動き始めたが、少し長引いてしまい、客足を戻すために思案中(民芸品店)
- ・個人消費が本格的に回復していないのに、7月号で益々わるくなった。(コンビニ)

◇サービス業

- ・大雨災害より5か月経過し、自粛傾向であったホテル利用が忘年会時期に入り需要喚起となったと思われる。(ホテル業)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)